

今回の特集「脊髄性運動失調」であるが、私たち脊髄外科医にとっても非常に興味深く拝見することができた。

脊髄腫瘍の手術に際しては、神経伝導路の障害を最小限にするために、後正中溝や後外側溝から進入したり、露出部位から進入したりして腫瘍を摘出する。後正中溝から進入した場合は後索症状をきたさない努力をする。しかし、後外側溝から進入した場合には脊髄小脳路を意識することは少なく、その奥の外側皮質脊髄路に注意が向いているのが事実である。神経学的検査において脊髄小脳路の神経症候を検出できること、また脊髄小脳路の障害が神経機能回復にどのような影響を及ぼすのかなど知りたいことはいくらかもある。

さて、私たち脊髄外科医が手術の対象としている疾患の多くは脊椎変性疾患である。加齢により脊柱変性は高度となるため、神経圧迫をきたす部位は脊柱管全体、外側陥凹部、椎間孔内・外など複数箇所にも及ぶ。MRIなどの画像では、多数部位で神経が圧迫されていることも多いが、すべての部位を減圧することは現実的ではない。しかし、神経症状に関与している部位は確実に減圧しなければ、術後の成績不良につながってしまう。また、加齢による神経変性も相まって、末梢神経障害をも考慮しなければならない。責任病巣を紐解くためには、神経症候を理解し、さらに神経解剖学に精通することが必要である。

知らないことはまだまだ医療の世界には多い。学問的には古いと思われる神経症候学ですら、わかっていないことが多い。診断機器の発展は目覚ましいが、簡単な道具でできる神経診断のレベルアップを図り、よりよい治療を提供できるようにしていきたい。

(原 政人)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素磨 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

山崎正志 (編集委員長)
金 彪 (副編集委員長)
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 谷 論 筑田博隆
永島英樹 中村雅也 根尾昌志
原 政人 飛驒一利 松山幸弘

Vol. 33 No. 11
(2020 年 11 月 25 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価 (本体 2,500 円 + 税)

(配送料別)

年ごめ予約購読料 33,300 円 + 税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当: 山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2020,
Printed in Japan

JCOPY (出版者著作権管理機構 委託出版物)

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。